

千年の森便り No.257

2025.6.25

ちば千年の森をつくる会

<http://toyofusajima.html.xdomain.jp/>

代表 福島成樹

sennennomori@hotmail.co.jp

活動の記録

6月15日(日) 天候 雨のち晴れ

今回は集合時から激しい雨となり、駐車場で強い雨雲をやり過ごしてから活動となりました。その後、お天気は曇り空から午後には晴れに変わり、予定していたニホンジカ生息状況調査、植物調査、危険木伐採などの作業を行いました。初夏の豊英島では、コ克蘭、ツチアケビ、イワガラミ、キヨスミギボウシ、シモツケなどの花が見られました。

また、坂本さんからはお土産に畑でとれた新じゃがをいただきました。ごちそうさまでした！

参加者は、秋元、伊藤、鶴沢、大原、片野、坂本、福島の会員7名でした。

次回は、7月21日に吹春先生と中島先生をお招きし、公開行事として夏のきのご観察会を行います。

ご参加をよろしくお願いいたします。(福島)



〇ニホンジカ生息状況調査

この調査は、3か月に1回、年4回のペースで実施しています。前回の3月は雨で定例活動が中止となったため、12月以来半年ぶりの調査となりました。調査時間は、雨で活動のスタートが遅れたため、いつもより30分遅い10:40から約30分でした。なお、今回は雨で北岸の1コースの踏査が危険と判断されたので、2コースの担当者が尾根下をのぞき込んで1コースの範囲を確認する方法で実施しました。

記録としては、2コースの坂本さん、4コースの福島が西側の岬で物音を確認しましたが、動物なのか大きな枯枝が落ちた音なのか分かりませんでした。また、7コースの大原さんがホテイ岬に下る手前で動物の死体を確認しました。死体には下顎骨が残っており、形からキョンの幼獣ではないかと思われました。ニホンジカ、キョン、イノシシなどの目撃はありませんでした。

5月の活動日に確認された植生保護柵の外にあるホテイチクのタケノコは、今回もニホンジカによる食害がなかったことから、最近ではニホンジカが島に上陸していない可能性があります。(福島)



強い雨を駐車場でやり過ごして活動開始



吊り橋を渡ったところの枯死木(ナラ枯れ)



動物の骨(右下は下顎骨)

〇雨上がりの豊英島

雨上がりの森は清浄な空気に包まれていました。対岸の白い崖を落ちる雨の時に現れる幻の滝は大迫力で音を立ててダム湖にそそぎ、那智の滝とまではいきませんがなかなか見事なものでした。この雨でダム湖はだいぶ増

水したようです。岸は後退し、境界杭は 5cm ほど水に浸かっていました。また、盛りを過ぎたヤマボウシの白い花（総苞片）が散り、いたるところで褐色の落ち葉の地面に彩りを添えていました。

今回楽しみにしていた花は、イワガラミとキヨスミギボウシです。期待通りみずみずしく見ごろの状態にありました。イワガラミはつる性で高い木に絡みついて、頭上の高いところに花を咲かせていました。撮影には望遠レンズを使用しますがいつもひと苦労です。今回は、撮影のために一脚を用意しました。思う様には扱えませんでした。キヨスミギボウシはコナラ伐採地で白色の花をつけていました。このキヨスミギボウシは活動日の関係でなかなか撮影できず、今回初めて花の写真を撮ることができました。また、コナラ伐採地の植生保護柵の隅でピンク色のシモツケが咲いていました。

コクランは午後になって開花したようです。小さい花ですが、拡大すると見応えがあります。暗紫色の細い管状のユニークな形状で二輪咲いていました。期待していなかった花があると嬉しくなります。ツチアケビ、オオバノトンボソウ、イチヤクソウなどの株も健全そのものといった様子です。いつもの貧弱な感じではなく、力強さを感じました。

その他、きのこではウスタケらしききのこを確認しました。昆虫では鮮やかな青色をしたムラサキシジミ、黄色の点を持つオオヨツボシゴミムシがいました。先月、巣にいたトビの雛は、産毛から成鳥と同じような羽が生えそろい親鳥ぐらいの大きな姿となっていました。まだ、飛べそうな感じはしませんでした。トビの巣立ちには 40 日～50 日を要するようです。この幼鳥は産毛の姿から 28 日目です。あと 10 日ほどで巣立つかもしれません。（秋元）



雨の時に出現する幻の滝



ヤマボウシ



コナラに絡みついたイワガラミ



イワガラミ（花を拡大）



キヨスミギボウシ



シモツケ



コクラン（右は花の拡大）



千年広場近くのツチアケビ（右は花の拡大）



イチヤクソウ



ウスタケ？



不明きのこ



ムラサキシジミ



オオヨツボシゴミムシ



トビの雛

〇マムシ 2 題

シカ調査の途中、祠山近くでマムシに遭遇しました。雨上がりの林内は生暖かい風が吹いていて、いかにもマムシが活動しそうな状況でしたから、予想通りにお出ましになったなと思っただけで、特に驚く事ありませんでした。

暫く見ていると山上に向ってのそのそ移動し始めましたが、他の蛇類にくらべると敏捷性がありません。人間の方が先に気付いて余分な手出しさえしなければ襲ってくることはありませんから必要以上に恐れることも無く、平和共存できる相手と思います。

もう一方のマムシとの遭遇は、サトイモ科植物のヒガンマムシグサです。花は春の彼岸の頃に咲くので、今は結実してトウモロコシの様な実が目立ちました。冬枯れのころには毒々しいまでの赤い実になって更に目立つでしょう。多くの林床植物がシカの食害で減少した中で、これだけ立派な株が島内に残っているのは有毒植物の証しです。マムシグサの名前は茎の蛇紋模様とかコブラが鎌首を持ち上げたような花型に由来すると言われますが、有毒の点も共通しているとその原稿を書きながら気付きました。(坂本)



マムシ



ヒガンマムシグサ



アカガシ



ツガ



コナラ伐採地



テイカカズラ



ヒメコマツ植栽地



ホテイ岬のツチアケビ



禁断の岬のツチアケビ

○危険木伐採

島内には、ナラ枯れの被害による枯死木が多く残っていますが、枯損木の上部は林冠が開いて明るく、林床には、どんぐりから芽を出したばかりの幼樹がたくさん見られました。7月には「夏のきのご観察会」が行われる予定もあるので、午後から枯死木の伐採作業を行い、9本を伐採しました。

蒸し暑い中、福島さん、伊藤さんが手際よく伐採する木を選び、チェーンソーを巧みに操作して伐倒していきました。枯死木は伐って倒れていく際に途中から幹が折れたり、木が腐っていてつるが効かなかったりと枯死木処理の怖さを実感しました。また、1本はかかり木になってしまったため、周囲に立入禁止のテープを設置しました。

私もご指導いただきながら、始めに玉切り、そのあと危険性の低いと思われる枯死木の伐倒作業をしました。玉切りでは何度か木にチェーンソーが挟まり、「木にかかっている応力をよく考えて作業を進めて」とアドバイスをいただきました。頭でわかったつもりでいても実践は難しく、定期的に作業を続けていくことが大切だと感じました。これからも安全を第一に森林整備に努めていきたいと思います。(片野)



枯死したコナラを伐採、玉切り

お知らせ

○次回の定例活動は7月21日(月祝)、公開行事として夏のきのご観察会を行います。

吹春先生と中島先生をお招きし、恒例の夏のきのご観察会を開催します。

スタッフが必要となりますので会員の皆様のご参加をよろしくお願いします。

集合場所は、県民の森管理事務所下の駐車場、会員の集合時間は9:30です。

熱中症対策、ヤマビル、ダニ対策を忘れずに、また、安全のためヘルメットの着用をお願いします。